

資料 6

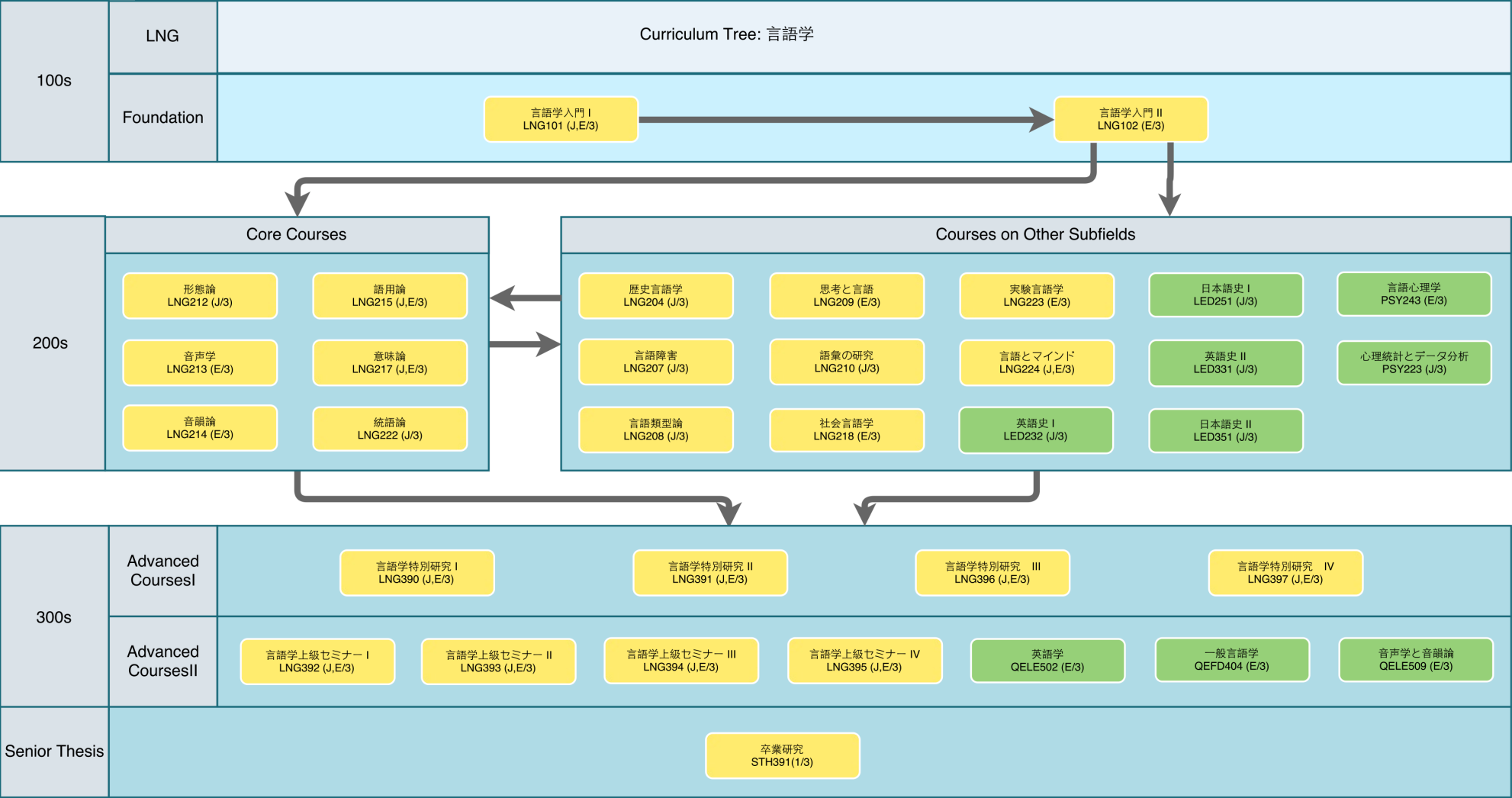
中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回) H31.2.13

中央教育審議会大学分科会 教学マネジメント特別委員会 (第3回) 委員御提出資料

① 日比谷座長 (国際基督教大学学長)	・ ・ ・ 1
② 川並委員 (学校法人東京聖徳学園理事長・学園長、聖徳大学・聖徳大学短期大学部学長)	・ ・ ・ 2
③ 浅野委員 (山形大学学術研究院教授、名古屋大学 I R 本部特任教授)	・ ・ ・ 1 1
④ 大森委員 (共愛学園前橋国際大学学長)	・ ・ ・ 1 3
⑤ 佐藤 (東) 委員 (学校法人桜美林学園理事長・桜美林大学総長)	・ ・ ・ 2 2
⑥ 佐藤 (浩) 委員 (大阪大学全学教育推進機構准教授)	・ ・ ・ 2 4
⑦ 清水委員 (山梨県立大学理事長・学長、筑波大学名誉教授)	・ ・ ・ 3 2
⑧ 但野委員 (独立行政法人国立高等専門学校機構理事、函館工業高等専門学校校長)	・ ・ ・ 4 0
⑨ 松下委員 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)	・ ・ ・ 5 5
⑩ 森委員 (関西大学教育推進部教授)	・ ・ ・ 5 8

(御説明順)

Last Update 2018 / 02 / 02



*2019年度現在。

- 凡例
- Host Course
- Co-list

保育者への扉を開こう		子どもの世界にふみこもう		自分の力をためしてみよう		感性豊かな保育者に	
保育現場で学ぶ	幼児教育実習Ⅰ 附属幼稚園見学実習での成果を踏まえつつ、幼児期の特性、教師の援助、幼稚園の生活等について理解するとともに、保育活動の一部を担当し、指導の実感を体験することを通して、意欲的に学ぶことができる。	保育実習Ⅰ(施設) これまでの実習の成果を踏まえつつ、施設における利用児(者)との関わりを通して、施設の役割と機能、施設における保育士の職務等について理解することができる。		保育実習Ⅰ(保育所) これまでの実習の成果を踏まえつつ、保育所の生活に参加し、子どもへの理解を深めながら、保育所の機能とそこで保育士の職務について理解し、保育実習ⅡまたはⅢに向けての自己課題を明確化することができる。		【選択】 保育実習Ⅱ(保育所) これまでの実習の成果を踏まえつつ、部分実習や責任実習を通して、保育所の機能と役割、保育士の職務について深く理解することができる。 保育実習Ⅲ これまでの実習の成果を踏まえつつ、保育実習Ⅰ(施設)とは異なる施設での実習を通して、施設の役割と機能、保育士の多様な業務と職業倫理等について深く理解することができる。	
	GPA	GPA		GPA		GPA	
地域で学ぶ			フィールドワークで子育て支援活動ができるようになるために、子育て支援活動における課題解決能力を身につけている。		実習やフィールドワークの成果を踏まえつつ、地域貢献活動に必要な実践的技能・態度を身につけている。		
			GPA		GPA		
保育を創造する	保育内容を創造することへの関心・意欲を持つことができる。		保育を創造するために、子ども一人ひとりに応じた適切な援助方法を身につけ、実習を通して深めることができる。		実習やフィールドワークの成果を踏まえつつ、保育を構想、展開、省察するために必要な実践的技能・態度を身につけている。		
	GPA		GPA		GPA		
表現技能を身につける	表現技能に関する基礎的な知識・技能を身につけている。	表現技能に関する基礎的な知識・技能を実習を通して生かすことができる。	表現技能に関する知識・技能を実習を通して深めることができる。		実習やフィールドワークの成果を踏まえつつ、保育者としてふさわしい表現技能について、理論と実践を結び付けて考察することができる。		
	GPA	GPA	GPA		GPA		
子どもを理解する	子どもを理解するために必要な知識を身につけている。	身につけた知識を活用しながら、実習を通して子どもを広く理解することができる。	実習を通して子ども一人ひとりの実態を的確にとらえ、子どもを広く深く理解することができる。		実習やフィールドワークの成果を踏まえつつ、子どもの成長発達について、理論と実践を結び付けて考察することができる。		
	GPA	GPA	GPA		GPA		
学びの基礎を身につける	保育者として必要な身体表現の基礎を身につけている。	身につけた身体表現を実習で生かし、深めることができる。	保育者、子ども、保育・幼児教育と日本国憲法等の関わりについて理解し、実習を通して深めることができる。				
	保育者として必要なICT活用能力の基礎を身につけている。	身につけたICT活用能力を実習を通して深めることができる。					
	GPA	GPA	GPA				
人間性を高める	建学の精神「和」を理解し、他者に対して「礼儀」をもって行動することができる。	FCでの成果を踏まえつつ、グループ生活を通して、自制心を養い、卒業時の自分を見据え、他者に対する思いやりの充実した学生生活を送ることができる。	FC、学外研修Ⅰの成果を踏まえつつ、学外研修Ⅱでの集団生活を通して、宿泊や食事等の社会人として必要なマナーを身につけることができる。		北海道の自然や文化などに触れることを通して、自然と人間との関わりについての理解を深めることができる。		
	志賀高原の自然に触れて学ぶ楽しさを見出すことができる。	志賀高原の自然に触れて学ぶ楽しさを見出すことができる。	FC、学外研修Ⅰの成果を踏まえつつ、学外研修Ⅱを通して、卒業、就職に向けたクラスの連帯感、信頼関係を構築することができる。				
	ルーブリック	ルーブリック	ルーブリック				
1 年次春学期		1 年次秋学期		2 年次春学期		2 年次秋学期	
保育職への意欲を向上させる 勉学への姿勢を確立する		保育実践を理解する		基礎的な保育実践力を修得する		保育者として必要な 資質・能力を修得する	

学位授与の方針に掲げる
学修成果他者を尊重し、
保育に関わる
人たちと良好な
人間関係を
構築すること
ができる。保育者の職務
内容を理解し、
使命感、責任
感をもって保
育に取り組む
ことができる。子どもの遊び
や生活、発達
について理解
し、さらに、
保育者に求め
られる表現・
技能等を修得
して、一人ひ
とりの子ども
に適切な援助
をすることが
できる。子どもの発達
や実態を踏ま
えて指導案を
作成、実践し、
その振り返り
と改善ができ
る。他者と協働し
て地域の保育
課題に取り組
み、提案、発
信ができる。

次代をつくる“保育のエキスパート”

聖徳大学短期大学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学短期大学部は、1933年に創立された東京聖徳学園の建学の精神である「和」を教育理念としています。本学は、この理念を社会に創造的に活かしながら、常に新しい教育に挑戦するとともに、時代を超えて求められる多様な他者への尊敬と共感を大切にする人間性を備えた女性を様々な世界に輩出しています。

現代社会は、政治・経済・文化のグローバル化が進み、個人・社会の価値観が多様化・複雑化し、きわめて多くの複合的な問題に直面しています。このような変化の激しい社会において、人間の尊厳を見失わず、自ら新たな問いを立て多様な他者と協働しながら新たな価値を生むための力の育成が求められています。

聖徳大学短期大学部は、時代をリードする教育改革を進め、互いの価値観を共感的に受け止める確かな人間性、グローバルかつローカルな視点と学際的な洞察力、社会で発揮できる専門性の高い実践力をもつ人を着実に育成し、調和ある社会の発展に貢献しています。

聖徳大学短期大学部は、上記の教育理念に基づいて、以下の四つの教育目標を掲げます。

【教育目標】

1. 他者を思いやる協調性ととともに、凛として生き抜いていくための確かな人間性を育成する。
2. 自己分析力、論理的思考力、自己管理能力を活かし、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力と多面的な問題発見・解決力を育成する。
3. 専門分野に関する理論・知識・技能を修得し、理論と実践を結びつけて社会で発揮できる専門性の高い実践力を育成する。
4. グローバルな視野を備え地域で活躍できる専門性の高い実践力を発揮して、自分なりの価値を見いだし、自らの意思で一歩を踏み出すことのできる女性を育成する。

聖徳大学短期大学部では、こうした教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

【学修成果】

1. 一流の文化・芸術がもつ普遍性と固有性を感受し、グローバルで多様な価値を受け止めることができる。
2. 思いやりと慎みの心をもって相手の立場に立ち、集団の中で自立した行動をとることができる。
3. 自己や事象を客観的かつ論理的に考察することができ、自己の生き方をデザインすることができる。
4. 個別学問領域を超えたアイデアや洞察力を活かし、自己の確立を図ることができる。
5. 専門分野に関する知識・技能を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決することができる。
6. 専門領域に関わる理論と知識と技能を結びつけて、グローバルかつローカルな視点をも

って、多様な実際的かつ実践的な問題や課題に主体的に、かつ協働して取り組むことができる。

聖徳大学短期大学部では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

聖徳大学短期大学部では、学修成果を体系的に達成するために、全学共通科目と専門教育科目の教育課程を以下の方針に基づいて編成しています。

【教育課程編成の方針】

I 全学共通科目

全学共通科目は、「聖徳教育科目」、「教養科目」、「外国語科目」等から構成しています。

「聖徳教育科目」は「小笠原流礼法基礎講座」と「聖徳教育」から編成し、聖徳学園の建学の精神「和」に基づいた本学独自の人間教育を目的とし、確かな人間性を育成します。

「教養科目」は、文化、社会、自然、身体・精神などに関わるグローバルかつ複合的な諸現象や多様な問題状況に向き合い、個別学問領域を超えたアイデアや学際的かつ多面的な洞察力と学術を総合した問題解決力を育成します。

「外国語科目」等は外国語および的確な情報によるコミュニケーション・スキルを育成し、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を育成します。

II 専門教育科目

学科の教育目的を達成するために専門性の高い実践力を育成する教育課程を編成しています。その編成は次の基本方針に基づいています。

1. 学科の専門性を習得するために不可欠な学術的な基礎力を育成します。
2. 現代的課題に対応した専門的理論と知識を学び、問題・課題解決のための基礎力を育成します。
3. 充実した演習・実習科目を設定し、実際場面における問題・課題解決を通して実践力を育成します。
4. 専門職業人として自立し、優れた感性と表現力、柔軟な思考力と行動力を備え、卒業後の現場で生きる専門性の高い資質・能力を育成します。

【教育課程実施の方針】

全学科において、全学共通科目と専門教育科目の学修成果を効果的に達成するために、授業計画（シラバス）を作成して以下の教育課程実施の方針を示し、質の高い学習過程を展開しています。

1. 「到達目標」、「学修成果」、「評価の要点」を明示し、実施しています。
2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び他の授業科目との関連を明示しています。
3. 授業方法として能動的な学び（アクティヴ・ラーニング）を導入し、深い学びを促進しています。

4. 毎時間の「身につく資質・能力」と「予習・復習」時間を明記し、その実施を促進しています。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

聖徳大学短期大学部は、総合大学という特質を活かして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイデアや洞察力和多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組める、社会で発揮できる聖徳ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成を目指しています。

聖徳大学短期大学部はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。

1. 学びを通して、自己の成長を実現したいという強い意欲をもっている人。
2. 学びを通して、社会に貢献する夢をもっている人。
3. 学内外で必要なコミュニケーション力などの基礎を備えている人。
4. 授業に主体的、創造的、協働的に取り組むことができる人。

聖徳大学短期大学部ではこのような人を受け入れるために、多様な受験機会を用意しさまざまな入学試験を行っています。こうした試験においては、各学科での学習に必要な技能、知識、基礎的な学力、主体的な判断力、創造的な考えを表現できる力、仲間と協働して学びを作っていく力などについて、書類審査（調査書、推薦書など）、実技試験、学力試験、面接などを組み合わせて総合的に評価します。

保育科 第一部・第二部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

聖徳大学短期大学部保育科は、理論と技術を兼ね備え、実践力に優れた多くの保育者を社会に輩出してきました。現代社会においては、個人・社会の価値観の多様化が進み、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、保育現場では、これまで以上に質の高い教育・保育と、地域の課題解決に積極的に取り組める人材が求められています。

保育科では、現代社会の問題・課題にも対応できるよう、社会人として、保育者として、礼節、豊かな人間性、高度な専門的知識・技能を身につけ、子どもの教育・保育に関わる専門家としての情熱や使命感をもった保育者「次代をつくる“保育のエキスパート”」を養成します。

【教育目標】

保育科は、上記の教育方針に基づいて、以下の三つの教育目標を掲げます。

1. 礼節と思いやりの心、豊かな人間性、保育者としての使命感や責任感を育成する。
2. 保育実践に必要な論理的思考力、判断力、表現力、他者と連携・協働する力等、理論と実践力を育成する。
3. 子育ての支援を通じて、地域に貢献できる力を育成する。

【学修成果】

保育科では、上記の教育目標に基づいて、以下の能力を備えた人材を育成します。

1. 他者を尊重し、保育に関わる人たちと良好な人間関係を構築することができる。
2. 保育者の職務内容を理解し、使命感、責任感をもって保育に取り組むことができる。
3. 子どもの遊びや生活、発達について理解し、さらに、保育者に求められる表現・技能等を修得して、一人ひとりの子どもに適切な援助をすることができる。
4. 子どもの発達や実態を踏まえて指導案を作成、実践し、その振り返りと改善ができる。
5. 他者と協働して地域の保育課題に取り組み、提案、発信ができる。

保育科では、以上の学修成果を達成するために編成された教育課程において所定の単位を修得した人に、卒業を認定し、短期大学士（保育）の学士を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程編成の方針】

保育科では、学修成果を体系的に達成するために、全学で共通に展開する科目（全学共通科目）と、それらを基礎とし相互に密接に関連しながら専門性の高い実践力を育む専門教育科目の教育課程を編成しています。

専門教育科目については、以下の方針に基づいて編成しています。

1. 子どもを理解する力を育成する科目群を設定し、教育・保育・心理・福祉・保健等の学修を通じて、子どもを広く理解し、その成長発達について考察する力を育成する。
2. 表現技能を育成する科目群を設定し、感性を磨き、豊かに表現する力を高め、保育実

実践力を育成する。

3. 保育を創造する力を育成する科目群を設定し、保育の内容への理解を深め、指導力を育成する。
4. 保育現場で学ぶ科目群を設定し、実習指導や実習を通じて、子どもを真に理解しようとする姿勢と保育実践力、対人関係能力を育成する。
5. 地域で学ぶ科目群を設定し、フイールドワーク等を通じて、保育者として地域の保育課題に取り組む姿勢を育成する。

【教育課程実施の方針】

保育科では、学修成果を効果的に達成するために、以下の教育課程実施の方針を示し、学生が自らの長所を発見し伸長できる学修を展開しています。

1. 実習指導、地域で学ぶ科目等において自己評価を導入し、学生が自らの達成度を確認し、それを教員と共有し、以後の学修に活かすことにより、学修効果を高める。
2. 地域で学ぶ科目群においては、地域社会におけるフイールドワークを実施し、学生が主体的・体験的に学修することにより、実践的な学びを促進する。

入学者受け入れの方針（アドミSSION・ポリシー）

保育科では、豊かな人間性を備えた保育者、理論と実践力を備えた保育者、地域に貢献できる保育者を養成することを教育目標として掲げ、教育目標の達成のために、充実した教育課程を編成しています。保育科の教育目標を理解し、カリキュラムの学習に積極的に臨む人を、受け入れます。

具体的には、次のような知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力や、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度、明確な目標をもつ人を求めています。

1. 教育、保育、福祉に関心をもち、保育者になる意欲がある。
2. 子どもや子どもを取り巻く環境に関心をもち、自分の考えを述べることができる。
3. 文章を理解し、考え、それをまとめる力を身につけている。
4. 身体表現、造形表現、音楽表現等の活動を積極的に楽しむことができる。
5. グループ学習、課外活動やボランティア活動等で、仲間と協働して学習ができる。

このような受験生を受け入れるために、多様な受験機会をもち、入学試験では、個別面接、書類審査（調査書、推薦書など）、学力試験などを組み合わせて総合的に評価します。

【聖徳大学・聖徳大学短期大学部 アセスメント・ポリシー】

聖徳大学・聖徳大学短期大学部では三つのポリシー（学位授与の方針、教育課程編成の方針、入学者受け入れの方針）を、より高い学修成果の達成を目指して一体的・体系的に策定しました。今後はそれらの整合性を維持し、継続的な評価・改善によって実質化を図り、学生の学修成果をより高い水準にまで引き上げることが求められます。

そこで、本学ではこれまでの取り組みを活かし、三つのポリシーを起点とする内部質保証体制の評価、学修成果の達成度評価、学生の受入方針の評価を組織的に体系化し、この先進的なアセスメントの体系を聖徳大学・聖徳大学短期大学部アセスメント・ポリシーと名付け、更なる教育の質の向上を目指しました。

類型	内容	アセスメント主体	アセスメント対象	手法	実施時期
① 内部 質保証	三つのポリシーを起点とする内部質保証体制の評価	学部・学科 自己点検・評価委員会	学科の内部質保証体制	内部質保証チェックリスト、 エビデンス提示 等	毎年2月 ～3月
② 学修成果	学修成果の達成度評価	教員 学生 外部スティークホルダー	学修成果の達成状況	Learning Outcomes、 各種ルーブリック、 間接評価 等	毎年4月 ～2月
③ 学生の 受入方針	入学者受入方針に基づく入学 者選抜方法の評価	学部・学科 入学センター IR室 教育支援課	入学者選抜方法	入学者の追跡調査、 客観データの分析・検証等	毎年3月

アセスメント

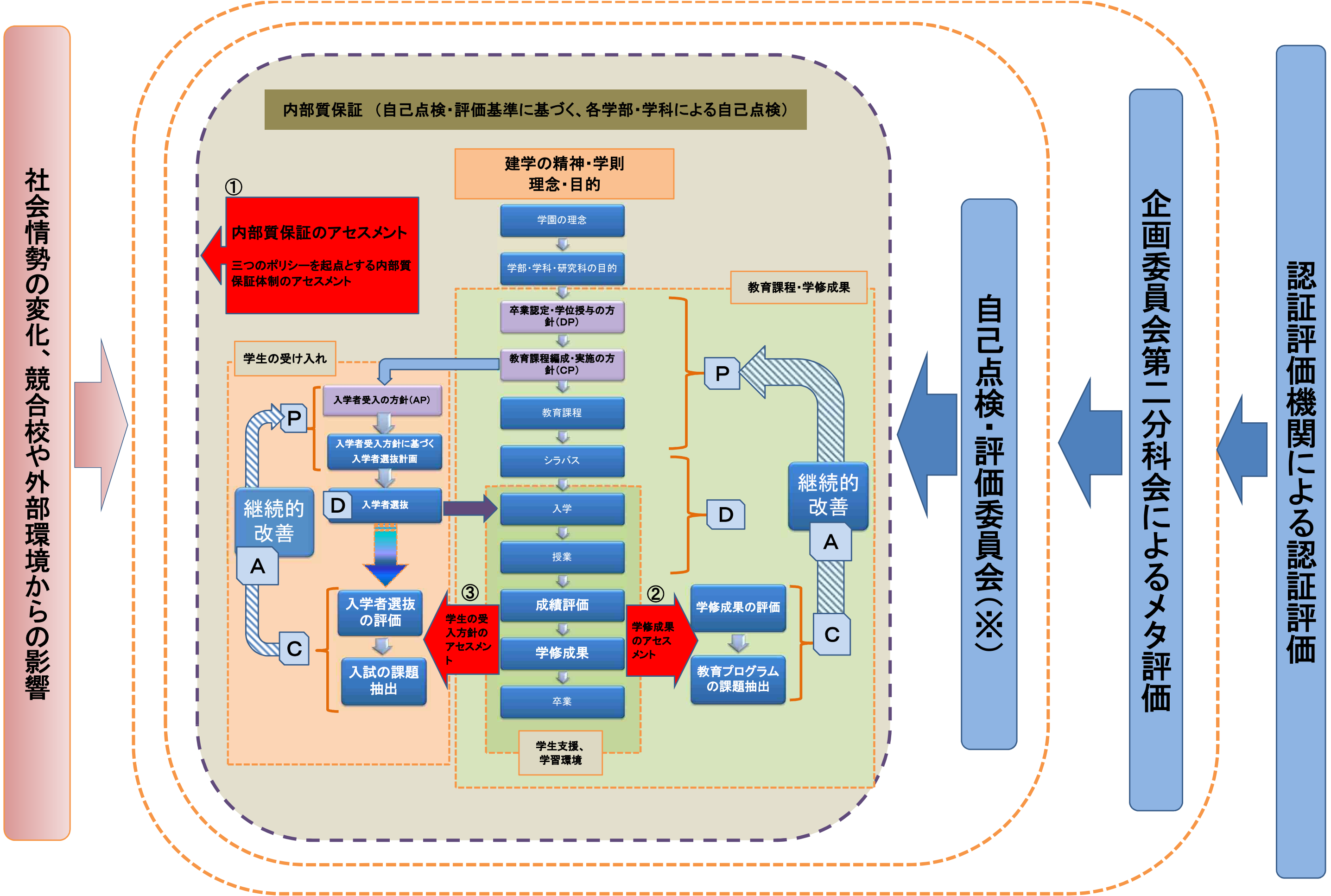
一般的には、設定された基準に照らした質的・量的測定を指す。高等教育の質保証の文脈においては、教育機関、教育プログラム、授業科目、学生等が測定の対象となる。それらの測定の中で、学修成果の測定が重要な要素となる。

学修成果のアセスメントとは、目標となる学修成果を明確にし、それに対して学生がどの範囲と水準まで獲得したかを把握する取り組みである。測定手法の例としては、定期試験などの直接評価と、卒業生への状況調査や学生に対する満足度調査などの間接評価が挙げられる。また、その機能により、診断的評価（学修前の予備知識、スキルの評価）、形成的評価（学修過程の学力向上や理解度の評価）、総括的評価（学修後の目標達成状況の評価）などに分類できる。

アセスメント・ポリシー

学生の学修成果の評価（アセスメント）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。個々の授業科目においては、学内の方針に基づき、成績評価の方法・基準などが学生便覧やシラバスに明示され、学生に周知されることが一般的である。

聖徳大学 内部質保証体系(アセスメント・ポリシー)のイメージ図



(※)各学科の内部質保証体制の評価は、専門チームを編成し、「内部質保証チェックシート」を用い、学科とのヒアリングを行いながら実施する。

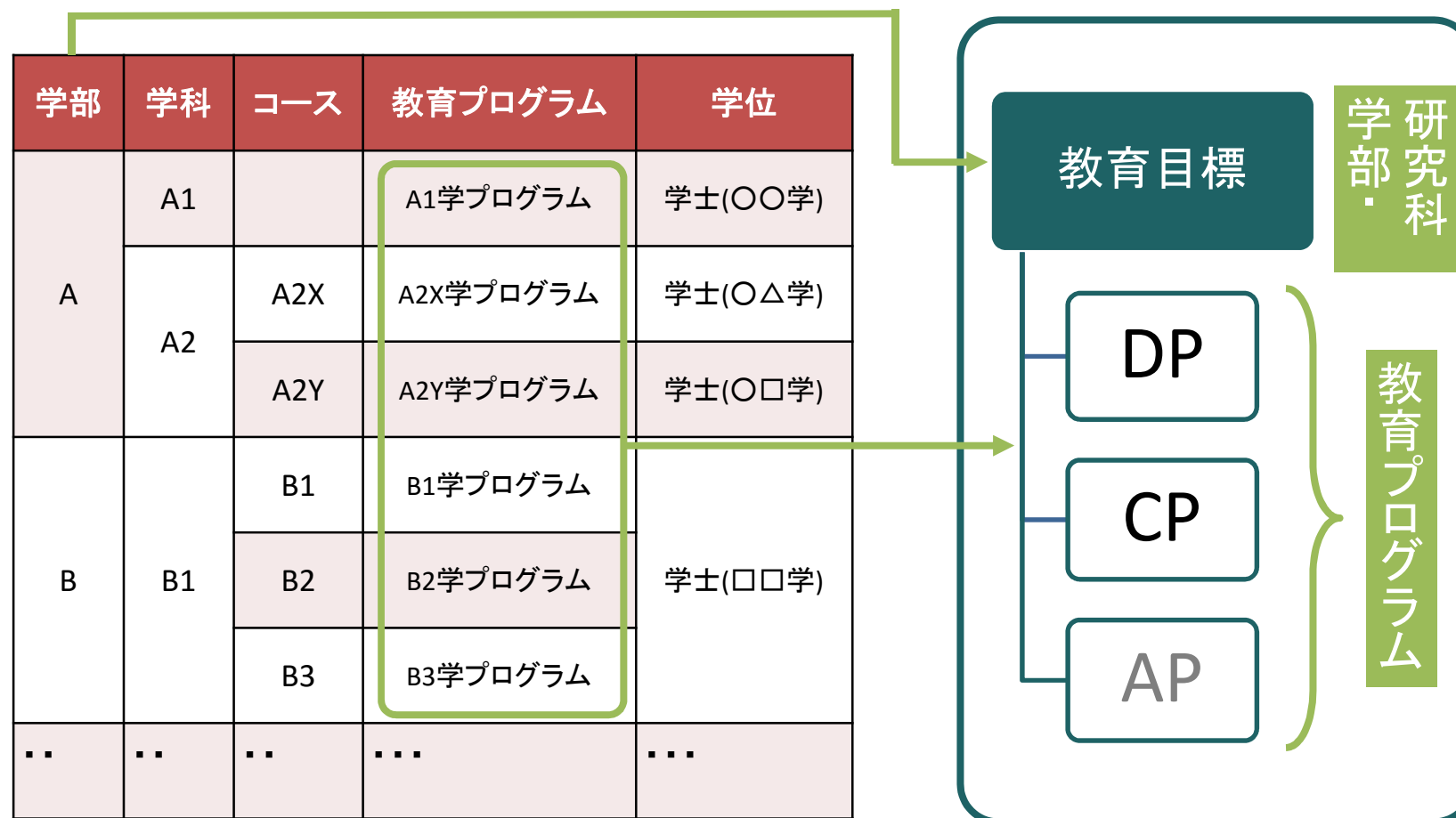
カリキュラムマッピングに向けた事前作業

単位設定

目標設定

アライメント

アサイメント



参考文献： 浅野茂（2017）「3つのポリシーの体系化に向けたIRによる支援—山形大学における教育の質保証強化の取組を通じて—」，名古屋高等教育研究，第17，pp8-22.

カリキュラム・マップの様式例と活用イメージ

単位設定

目標設定

アライメント

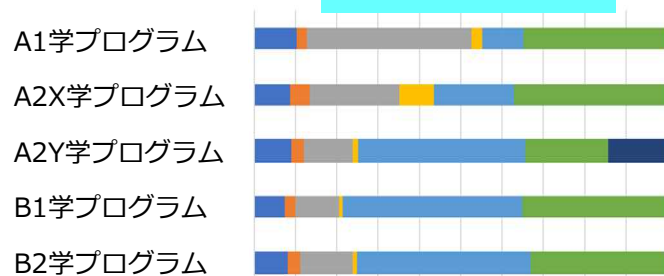
アサイメント

教育課程の編成・実施方針（CP）				カリキュラム				学位授与の方針（DP）			
CP1	CP2	...	CPn	科目名	担当教員	授業の目的	授業の到達目標	DP1	DP2	...	DPn
	○		○	サイエンス・スキル	山形太郎 山形花子	化学、生物、物理学及び生化学の基礎知識を涵養する。	(1)○○に関する基礎知識を把握できている。 (2)△△に関する理論を理解できる。 (3)◇◇的なものの見方を身に付けている。	(1)△ I (2)◎ R (3)○ M	(1)△ A		

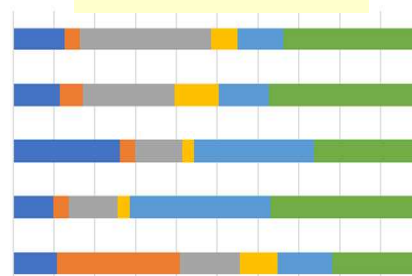
◎ DP達成のために特に重要な事項
○ DP達成のために重要な事項
△ DP達成のために望ましい事項

I : Introduced
R: Reinforced
M: Mastered
A: Assessed

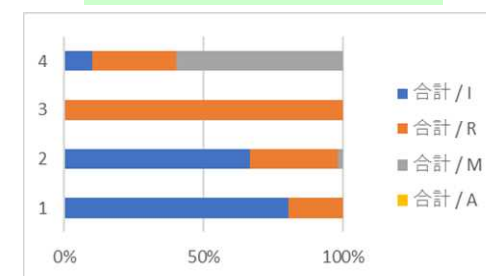
CPとの対応状況



DPとの対応状況



カリキュラムの順次性





共愛学園前橋国際大学における教学マネジメントの進捗と課題

中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会（第3回） H31.2.13

共愛学園前橋国際大学の概要

共愛学園の沿革



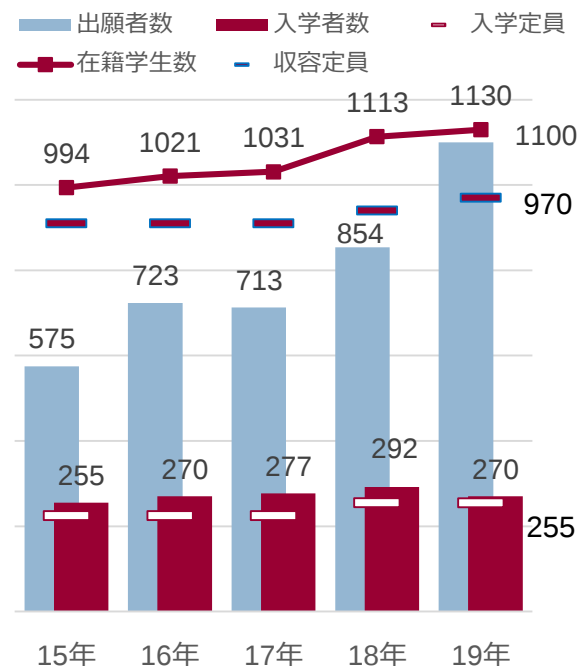
KYOAI
130th Anniversary

- 1888年（明治21年）
前橋英和女学校開校
- 1889年 上毛共愛女学校と改称
- 1939年 共愛幼稚園開設
- 1947年 中学・高等学校の併設
- 1988年
共愛学園女子短期大学開学
- 1999年
共愛学園前橋国際大学開学
- 2009年 共愛学園木瀬保育園開設
- 2011年 共愛学園学童クラブ開設
- 2016年 共愛学園小学校開校
共愛学園こども園開設

共愛学園前橋国際大学の概要

名 称 英語名	共愛学園前橋国際大学 KYOAI GAKUEN UNIVERSITY
理 念	共愛 = 共生の精神
目 的	国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち、 国際化に伴う地域社会の諸課題に対処すること のできる人材の養成
モットー	学生中心主義 地域との共生 ちょっと大変だけど実力がつく大学です
定 員	入学定員255名（2018年度に定員増）
学部 学科	国際社会学部 国際社会学科 国際社会専攻 英語コース 国際コース 情報・経営コース 心理・人間文化コース 地域児童教育専攻 児童教育コース
経 営	—2017年度決算— 借入金無 人件費率約46% 教育活動収支差額¥86,753,753

直近の出願者・入学者等の推移

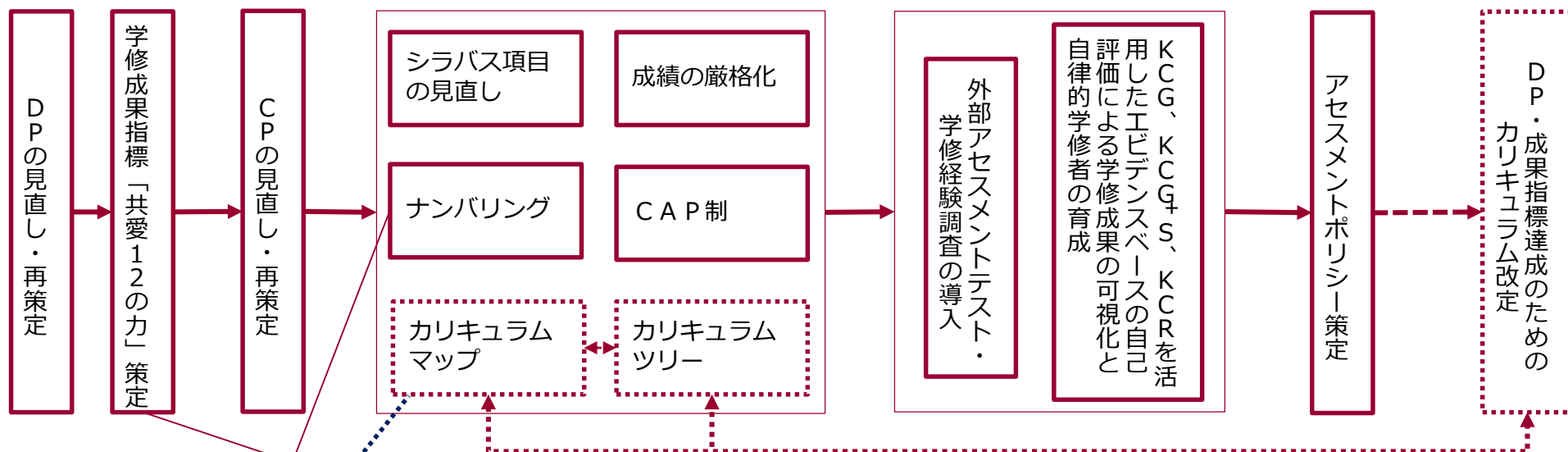


※2019年度は進行中であり、予想値である。

共愛学園前橋国際大学における教学マネジメントの進捗状況

実施済の取組

これからの取組



F D S Dとして策定した効果は大きかった

現状

現在のマップは、コース専門科目や共愛コア、自由選択科目を分野ごとにマッピングしたものであり、DPを基点としていない。
また、現在作成しているツリーもコース独自のもので、やはり分野別や進路別になっており、DPが基点となっていない。
そのために、現カリキュラムが真にDP達成に向かうものとなっているかどうかの検証が不十分である。

2019年度（中期計画上）

- ① 共愛12の力を基点に現行カリキュラムのマッピングし、正課外活動も含め12の力の分布を確認
- ② ①に加えKCGの結果も踏まえ12の力を基にカリキュラムの検証
- ③ ②の結果を基に新カリキュラムを構築（カリキュラムの精選を含む）
- ④ 改めてマップとツリーを作作り直す

改善

※KCG=KYOAI Career Gate ※KCG+S=KYOAI Career Gate Showcase ※KCR=KYOAI Common Rubric

教学マネジメント構築に係る課題

本学が教学マネジメントの精度を高め、カリキュラムに反映する際の課題をまとめてみました。

課題1：教学マネジメントの知見が学内に無いことに伴う課題

- ①本学においては、実際にマネジメント構築の手順が前後してしまっている。また、独学するために、時間も要する。
- ②学部のD Pとコース（学科）の専門性との両立をどう進めるのが正解なのかなど、技術的な疑問の解決が難しい。

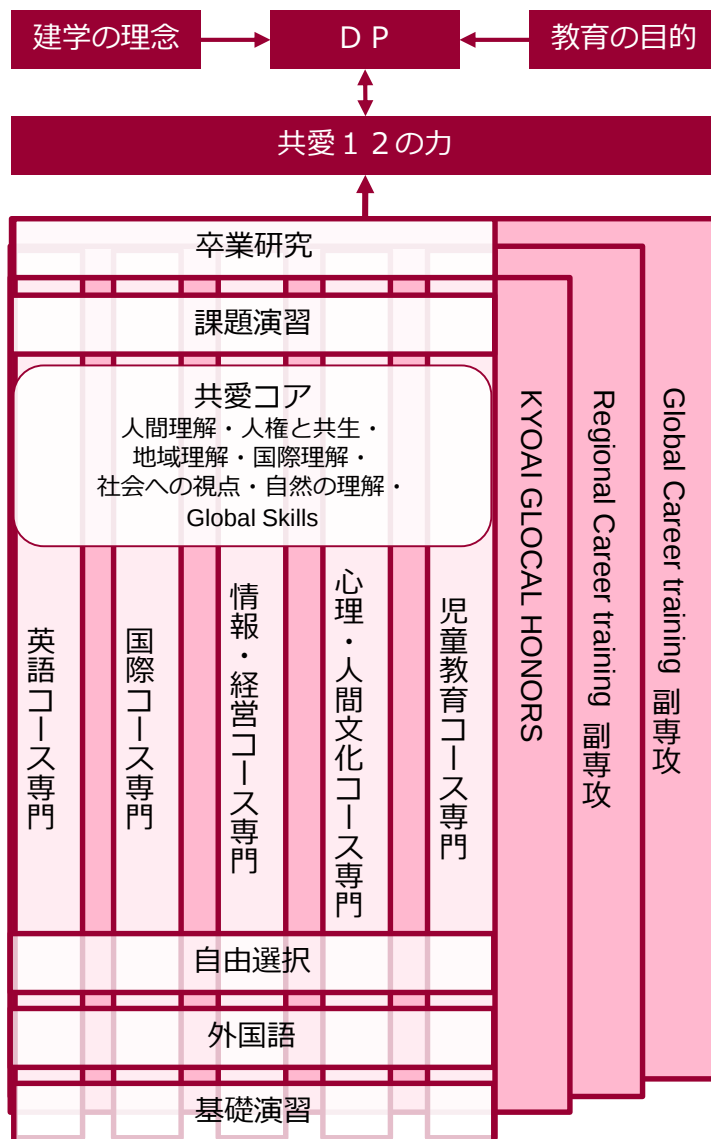
提案：ア）ガイドラインには取組事項のみならず、その手順やノウハウも盛り込まれるとありがたい。
イ）カリキュラム編成専門教職員の育成のみならず、学部長等の教学リーダーの研修機会の創出も必要。

課題2：D P達成に向けカリキュラムを精選することに伴う現実的な課題に係る議論

- ①クラス規模が大きくなる→クラスを分割
→教員の確保（特に地方）と同一科目担当教員間の調整が難しいという議論
- ②厳密にD P達成をめざすと多くの授業が必修科目となる。
さらに4単位科目に転換していくと、4年間で履修する科目数が30科目程度、年間8科目程度、半期4科目程度となるが、これだけの科目数で専門と教養（本学は特に学際学部）、資質、能力を身につけられるのかという議論。
- ③科目バラエティの縮小⇔学生募集への影響を懸念する議論
参考）本学（1学部1学科）の年間設置科目数 約480科目
開講クラス数 約700クラス

参考

共愛学園前橋国際大学のカリキュラム



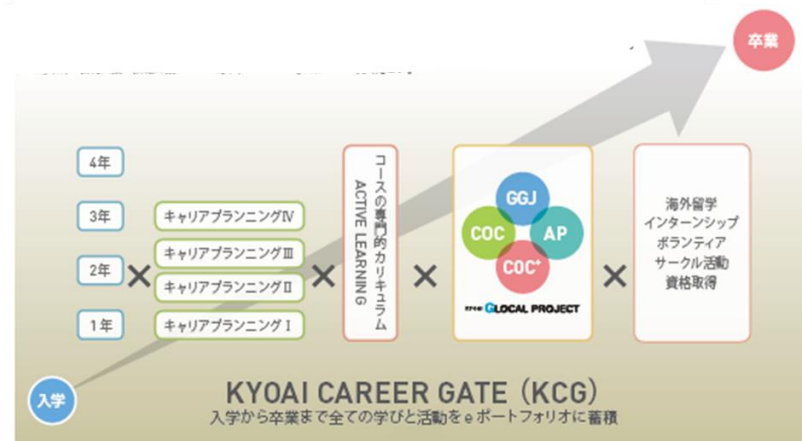
共愛12の力

ディプロマポリシー（DP）：卒業時に身につける力

1. 地域社会の諸課題への対応能力
2. 国際社会と地域社会の関連性についての識見
3. 問題を発見し解決するための分析能力・実技的技能
4. 国際化社会に対応できる十分なコミュニケーション能力

識見	共生のための知識	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する知識
	共生のための態度	倫理観、シチズンシップ、学び続けることを尊重する態度
	グローバル・マインド	国際社会と地域社会（群馬）の関わりを捉える視点
自律する力	自己を理解する力	自分の特徴、強みや弱み、成長を把握する力
	自己を制御する力	ストレスに対処し、学びやその他行動を持続させる力
	主体性	自ら課題を見つけ、行動計画を立て、実行していく力
コミュニケーション	伝え合う力	読み、書き、会話し、表現し、伝える力
	協働する力	チームで物事に取り組む力
	関係を構築する力	他者と円滑な関係を築く力
問題に対応	分析し、思考する力	情報を収集・分析し、問題を見つける力／論理的思考力
	構想し、実行する力	問題に対応するためのプランを立て、実行する力
	実践的なスキル	現代社会において必要な基礎スキルと専門的スキル

KYOAI CAREER GATE



4年間の学修で身に付ける4つの軸と12の力（学修成果指標）			
識見	■ 共生のための知識	■ 共生のための態度	■ グローバル・マインド
自律する力	■ 自己を理解する力	■ 自己を制御する力	■ 主体性
コミュニケーション	■ 伝え合う力	■ 協働する力	■ 関係を構築する力
問題に対応する力	■ 分析し、思考する力	■ 構想し、実行する力	■ 実践的スキル

SHOWCASE (KCG+S)

KCGに蓄積した成長の記録を公開履歴書としてキャリアに接続

CAREER

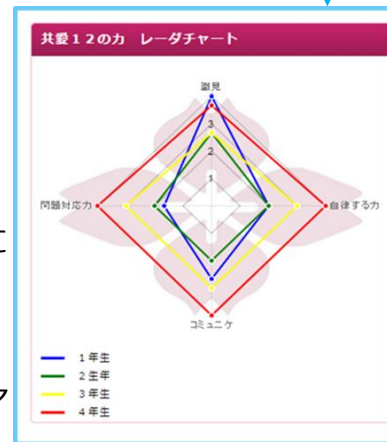
4年間に会おうたくさんの学びと活動。その一つ一つを、eポートフォリオである

KYOAI CAREER GATE

に蓄積し、自分の学習を振り返りながら、それをエビデンスとして、学習成果指標に基づく成果の自己評価と可視化をします。さらに、その活動や成果を

SHOWCASE

を通して社会へと発信し、目指すキャリアへと接続します。





KYOAI Common Rubric

4の軸	12の力	12の力の定義	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
識見	共生のための知識	多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識	共生のための社会の諸課題に対応するための、新たな知見を生み出すことができる。	共生のための社会の諸課題について、知識を組み合わせ、自分の言葉で説明することができる。	所属するコースの専門的な知識を習得している。	文化、社会、地域、人間、自然、外国語に関する体系的な知識の習得に努めている。
	共生のための態度	多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動	多様な存在が共生可能な社会のために、考え、学び、行動し続けることができる。	多様な存在が共生する社会の中で、自分ができること、やらなければいけないことについて考えることができる。	授業や活動を通じて、社会が多様な存在で構成されていることを理解し、多様性を尊重する気持ちを持っている。	自分の態度や信念は他の文化やコミュニティの態度や信念とは異なっているという自覚をもっている。
	グローバル・マインド	地域社会と国際社会の関わりを捉え、両者をつなぐことで、地域社会の発展に貢献する姿勢	地域社会と世界をつなぎ、自らが暮らしていく地域の発展に貢献するグローバル人材として活躍していくビジョンを持っている。	地域社会と国際社会の関わりについて、様々な学びを通じて、主体的に考えることができる。	母国以外の政治・経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。	自らの暮らし、学びの場である地域の経済・文化・社会・歴史について知りたいという意欲がある。
自律する力	自己を理解する力	自己の特徴、強みや弱み、成長を正確に理解する力	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に表現でき、将来に向けての自分をイメージすることができる。	様々な経験を振り返ることを通じて、自分の特徴、強みや弱み、成長を客観的に理解することができる。	自らの興味関心や特徴、長所や短所について考えながら、授業や活動に取り組むことができる。	授業や学内外の活動を通じて、自分の興味関心のありかを確認したり、新たな興味の対象を見つけようしたりしている。
	自己を制御する力	ストレスや感情の揺れ動きに対処しながら、学びや課題に持続して取り組む力	ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつながりながら、大きな困難に挑戦し、価値あることをやり遂げた経験と自信がある。	ストレスや感情の揺れ動きと上手に付き合いつながりながら、困難な課題に取り組むことができる。	達成が容易でない課題でも、最後まで粘り強く取り組むことができる。	設定した目標に向かって、取り組むことができる。
	主体性	人からの指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけ、行動する力	達成困難な課題であっても、解決のための方法を模索しながら、自ら動き続けることができる。	自らすべきことを見つけ、行動し、その結果を振り返り、次の行動に活かすことができる。	指示を待つのではなく、自分の状況を判断した上で、自らすべきことを見つけ、行動している。	指示を待つのではなく、何をすればよいか、するべきかを見つけようとしている。
コミュニケーション力	伝え合う力	コミュニケーションにおいて相手の意図を正しく理解し、自分の意図を効果的に伝達する力	レベル1～3を複数の言語で行うことができる。	適切なコミュニケーション・ツールを用いて、自分の伝えたいことをわかりやすく表現することができる。	コミュニケーションの状況や相手の立場を考慮して、伝達方法を工夫することができる。	発言や文章の論点を正しく理解することができる。
	協働する力	他のメンバーと協調しながら集団として目標に向けて行動する力	良いグループになるための条件を常に模索し、他のメンバーへの働きかけを通じて、グループの目標達成に貢献することができる。	多様な意見や立場、利害を把握した上で、グループ内の関係性構築に貢献できる。	グループでの自分の役割、責任を理解し、自分なりにグループに貢献することができる。	他者の発言をよく聞き、会話の流れをしっかりと追いつきながら、グループに協力することができる。
	関係を構築する力	様々な他者と円滑な関係を築く力	自分とは異なる価値観や文化を持つ他者や、バックグラウンドが大きく異なる他者とも円滑な関係を築くことができる。	互いの状況や立場についての理解を深め合うことにより、相手と円滑な関係を築いていくことができる。	相手の状況や立場を理解し、共感を示しながらコミュニケーションすることができる。	自分の気持ちを一方的に伝えるだけでなく、マナーを守り、相手を尊重してコミュニケーションすることができる。
問題に対応する力	分析し、思考する力	様々な情報を収集、分析し、論理的に思考して課題を発見する力	必要な情報を効率的に集め、多面的視点から分析を行い、現実の、または学術上の問題について新たな課題を発見することができる。	情報・資料の分析を通じて、物事を多面的に見ることにより、問題の新たな側面を発見することができる。	自ら情報・資料を収集し、それらを論理的に分析し、考察することができる。	与えられた情報・資料を客観的に読み取ることができる。
	構想し、実行する力	課題に対応するための計画を立て、実行する力	現実の、または学術上の問題を解決するために、収集した情報や知識を活用しながら計画を立て、完遂することができる。	計画の進捗状況を確認し、必要に応じて計画を修正しながら、着実に実行していくことができる。	立てた計画を着実に実行することができる。	取り組むべき物事に対して合理的な計画を立てることができる。
	実践的スキル	現代社会において必要な基本的スキルと自らの強みとなる実践的スキル	問題解決に役立つ様々なスキルを組み合わせ、状況に応じて柔軟に活用することができる。	自らの強みとなるスキルを身につけ、問題に対応することができる。	学びに必要な基本的な事柄を自らのスキルとして活用できる。	学びに必要な基本的な事柄（コンピュータの使い方やレポートの書き方など）を理解している。



共愛学園前橋国際大学

英語コースの英語科目の分野別ツリー(共愛12の力とリンクしていないことが課題)

4技能

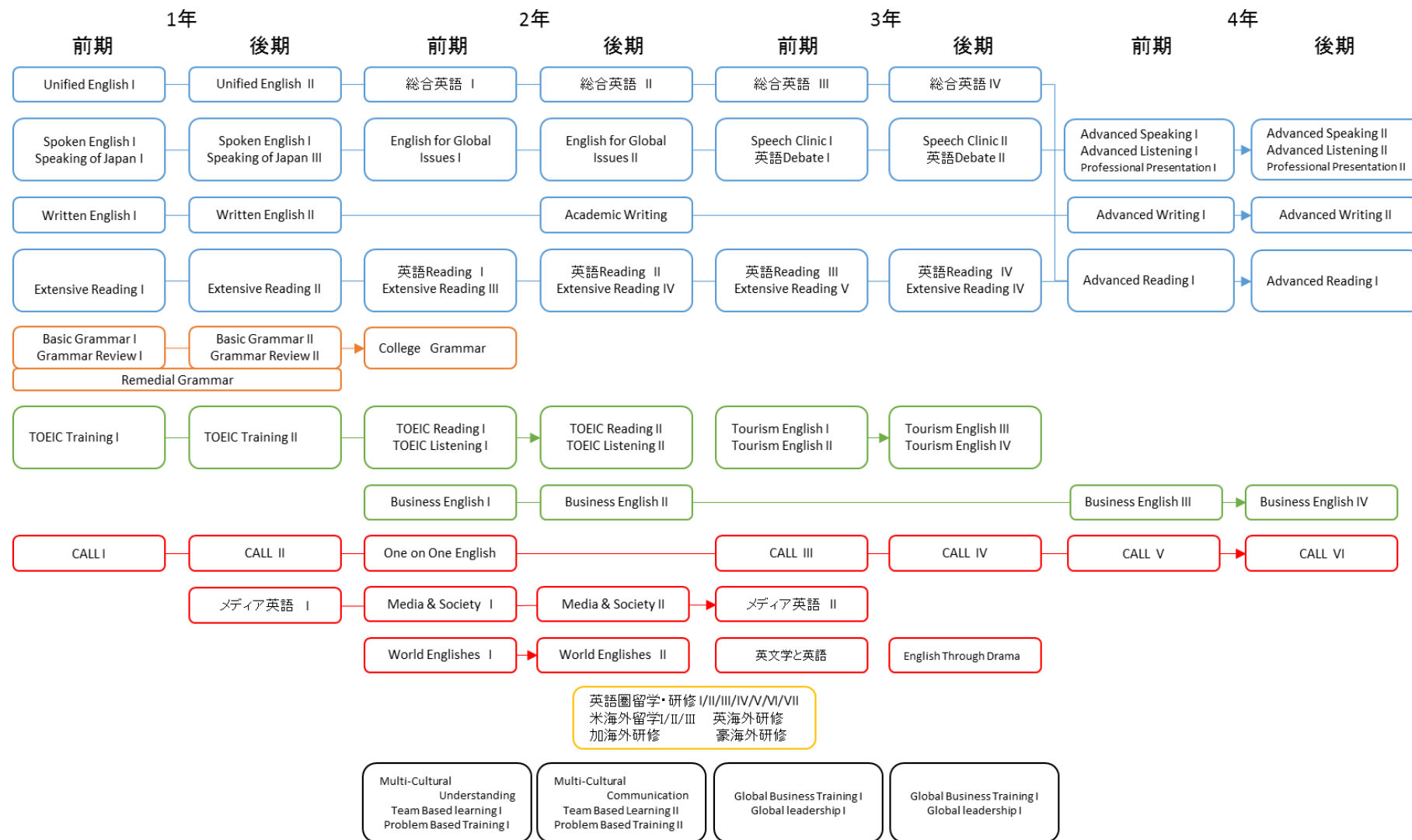
文法

資格

ICT活用
多様な英語

留学

Global Skills



情報・経営コースの分野・資格・進路別マップ(共愛12の力とリンクしていないことが課題)

2018年度 ロードマップ

情報系科目

◎コース必修 ○取得候補 △次候補 ☆資格対策講座 ⊙教職課程上の必修

2018年度 ロードマップ

経済経営系科目

凡例: ◎ コース必修 ○ 取得開始可能年次 △ 次候補 ⊙ 教職課程上の必修

	資格				P検			MOS Word			MOS Excel			ITパスポート				基本情報				教職「情報」						
	履修を推奨する学年(注1)				1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			
講義科目	情報処理概論	○											○					○					○					
	情報倫理	○											○	△				○	△				○	△				
	アルゴリズム												○	△				○	△				◎	△				
	システム開発														○					○								
	情報技術		○	△										○	△				○	△				◎	△			
	情報システムとソフトウェア			○	△										○	△			○	△				◎	△			
	コンピュータネットワーク																○	△			○	△			◎	△		
	画像情報処理																	○	△				○	△		◎	△	
	関係データベース特講(注2)														○	△				○	△				○	△		
	情報総合Ⅳ															○	☆	△								○	△	
	統計															○	△				○	△			○	△		
	経営システム																○				○	△				○		
	情報産業論																				○	△				◎	△	
情報通信と教育																				○	△				○	△		
情報科教育法																									◎	△		
演習科目	情報演習・基礎	◎	☆			◎			◎			◎						◎					◎					
	情報総合Ⅰ	◎	☆			◎			◎			◎						◎				◎						
	コンピュータネットワーク演習			○										○					○					◎				
	シミュレーション																								◎	△		
	文章作成技術特講						○	☆	△																			
	表計算特講										○	☆	△															
	情報演習・プログラミング																			○	△			◎	△			
	C言語																				○	△				○	△	
	オブジェクト指向プログラミング																			○	△				○	△		
	データベース(注2)														○	△				○	△				○	△		
ウェブデザインⅠ・Ⅱ														○	△									○	△			
コンピュータグラフィックス														○	△									○	△			
情報以外	ビジネス・コミュニケーション													○	△									○	△			
	経営情報													○	△				○	△				○	△			
	情報社会																						◎	△				
	数の不思議																						○	△				
	自然の不思議(注2)																						○	△				
	インターンシップ																									○		
	課題演習																								◎			
卒業研究																										◎		

	科目\資格	配当年次	一般企業				公務員(行政職)				公認会計士				税理士				中小企業診断士				教職「商業」				「社会」「公民」			
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
経済系	経済学入門Ⅰ	1年前期	◎				◎			◎				◎				◎								◎				
	経済学入門Ⅱ	1年後期	○	△			○			○	△							○	△						○	△				
	マクロ経済学	2年前期		○	△			○	△		○	△						○	△							○	△			
	ミクロ経済学	2年後期		○	△			○	△		○	△						○	△							○	△			
	世界経済	2年前期						○	△																	○	△			
	生活と金融	2年前期		○	△			○	△																○	△				
	金融事情	2年後期		○	△			○	△																○	△				
	財政事情	3年前期			○	△			○	△															○	△		○	△	
	日本経済論	3年前期			○	△			○	△																				
時事経済	3年後期			○	△			○	△																		○	△		
経営系	経営学Ⅰ・Ⅱ	2年前後期	◎							◎								◎				◎								
	国際経営Ⅰ・Ⅱ	2年前後期																				○	△							
	マーケティング	2年後期		○	△													○	△			○	△							
	中小企業論	2年前期		○	△													○	△			○	△							
	簿記Ⅰ・Ⅱ	1年前後期	○	○	△					○	△			○	△			○	△	△		◎	△							
	上級簿記	1年前後期								○	○	○	○	○	○	○	○							○	△					
	財務会計Ⅰ・Ⅱ	1年前後期	○	○	△					○	△			○	△			○	△			◎	△							
	管理会計Ⅰ・Ⅱ	2年前後期								○	△			○	△			○	△			◎	△							
	電子会計Ⅰ	1年集中	○	○	△																									
	バーチャルカンパニーⅠ・Ⅱ	1年前後期	○	△																		○	△							
その他	バーチャルカンパニーⅢ	2年前後期		○	△																									
	シミュレーション	3年前期			○	△																○	△							
	ビジネスコミュニケーション	2年前期		○	△																			○	△					
	Business EnglishⅠ・Ⅱ	2年前後期			○	△																		○	△					
	アルゴリズム	1年後期	○	△				○	△									○	△							○	△	△		
	情報システムとソフトウェア	2年後期		○	△				○	△								○	△											
	システム開発	3年前期			○	△				○	△									○	△									
	法学概論	1年前期	○	△							○	△			○	△			○	△										
	民法	2年後期		○	△						○	△			○	△			○	△										
	企業法	3年前期			○	△						○	△					○	△						○	△				
その他	数の不思議	1年前期	○	△					○	△															○	△	△			
	自然の不思議(注1)	2年後期																								○	△	△		
	統計	2年後期		○	△				○	△			○	△																
	インターンシップ	3年前期			○																									
	カラーとビジネス	1年前期	○	△																				○	△					
	商業科教育法	3年前後期																							◎	△				
	職業指導	2年後期																							◎	△				
社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ	3年前後期																										◎			